

# 第18回福山駅前デザイン会議

2024年2月8日（木） 14:00～16:00  
福山市役所 本庁舎6階 60会議室



Content of the meeting 会議の内容

agenda  
01

福山駅前広場整備に係る検討内容（中間とりまとめ）

報告

福山駅前広場協議会などでの議論経過



- 福山城の遺構を生かした空間づくりについて、城の中に駅があることを表現し、史実に基づかないものは作らない。管理・安全上の観点からお堀は復元しない方針である。
- 交通施設の配置場所や動線に関する計画について、路線バスやタクシーの配置場所、一般車の送迎場所など具体案を検討している。
- 協議会では、遺構の表現方法やバスターミナルの実現性、タクシー乗降場や送迎バス乗降場の移設について肯定的な意見があった。また、総論として全面広場化を支持する意見が多かった。

意見交換

駅前広場の再編とまちの変化を踏まえた  
ウォークブルな空間づくりについて

説明



— 駅周辺の取組とまちの変化 —

- 4つのエリア(福山城周辺・伏見町周辺・中央公園周辺・三之丸町周辺)での取組により、まちの状況が大きく変化している中、結節点となる駅前広場の整備を見据え、回遊ルートや歩行者動線などを検討することが必要。

— 駅前広場の整備と工事計画 —

- 駅前広場再編は長期間を要すると見込まれる中、周辺道路の整備など、現状を把握しながら計画的に進めていく必要がある。

— 今後の展望 —

- 工事期間中も経済活動を継続しつつ、新たな投資が呼び込めるよう期間限定の利用も含めた広場、通りの整備や活用を進めていくことが重要。

意見



- ✓ 駅前広場整備に伴う、まちの変化に期待している人もいます。広場整備の間も出店者や居住者が楽しんで暮らし、頑張ろうと思える仕掛けを考えていくことが必要。
- ✓ 駅前広場以外の周辺エリアでも活用できる場所がある。ウォークブルな道を地域発意であげていき、新たな場所や施設をオープンさせるといった仕掛けをしていく必要がある。
- ✓ 公共交通の利便性向上と歩くことの習慣づけの組み合わせが大事。公共交通の利用が当たり前になる状況を作り出すべき。

- ✓ 行政の部署間連携が必要で、地域と連動しながら実験などを行い、駅前広場完成後の周辺の魅力的な環境を創出するための取組を行うことが重要である。
- ✓ ウォークブルなまちをめざすため、ハードの整備だけでなく、ストーリー性や期待感などを持たせることが重要である。
- ✓ 駅前広場整備のスケジュールをきちんと示しながら計画的に、かつスピード感を持ってウォークブルなまちづくりを進めてほしい。
- ✓ ウォークブルエリアの取組を議論していくためには、駅前広場の全面広場化を想定していくのがよいと考えている。
- ✓ 歩くという視点のほかに、駐車場の配置の視点も重要。どの場所に設置していくかという議論も必要。
- ✓ ウォークブルには「使いやすさ」も含まれている。多様な人が日常的に様々な活動ができるよう、まちを使う人を時間をかけて育てていくことが大事。
- ✓ ウォークブルの概念を広げ、歩くだけでなく、まちを楽しむことを重視しながら通りや動線を考えていくべき。
- ✓ 駅周辺ユーザーの中高生のアクティビティを取り込むことで、記憶とともに将来的な担い手として育ち、つながっていく。

(ウラ面へつづく)

## 意見交換(つづき)



- ✓ 高齢化が進む中、歩くのが難しくなることを考慮し、小型のモビリティなど歩く以外の移動手段や楽しみ方を提案する必要がある。
- ✓ 人の期待感を持続させるために「暫定利用」ではなく、入れ替わりなどの動きがあるものは「期間限定」というアプローチで計画を立て、常に新しい要素が取り入れられているような状況を作り、情報発信をしていくことが重要である。
- ✓ まちづくりでは、信用と行動が重要。民間の期待に応えていくために行政は、明るい話題の提供や活用可能な資産を示しながら活用意向のある事業者のマッチングなどに取り組み、まちの成長や動きを示していく必要がある。

報告

## agenda 02 商店街の新たなまちづくりの実現に向けた取組について



- 2022年度は、福山伏見町商店会など4つの商店街・商店会でビジョンを作成した。本年度は、久松通り・宮通り・元町エリアで連携し、エリアビジョンを検討している。
- エリアビジョン策定に向けて、市でワークショップの開催を支援している。

報告

## agenda 03 商店街・商店会の実証実験・事業の実施について



- 霞銀座商店街では、居心地の良い空間を作り出すため、歩道に人工芝を敷く実験を実施している。
- 福山伏見町商店会では、ほこみち制度の適用を見据え、町内のメイン通りにテーブルや椅子、装飾を設置のほか、イベントも企画しながら実験を行うこととしている。

報告

## agenda 04 ナイトタイムエコノミーの取組について



- 福山城を核としたナイトタイムエコノミー基本方針を策定中。築城400年記念事業によるにぎわいの継続と夜間早朝の福山駅周辺空間の快適化をめざしている。
- 方針として、築城400年記念事業を活かしたにぎわいづくりとその取組を駅周辺に波及させる連携の促進、持続可能で多様な主体が活動しやすい環境づくりを掲げている。

報告

## agenda 05 公共空間ばらの植栽デザイン計画に基づくばらの環境整備について



- 2025年の世界バラ会議に向けて、駅周辺のばらの環境整備を進めており、駅前広場やローズロード、ばら公園等の植栽の充実により、ウォークアブルな空間を創出している。
- 国の支援を得ながら、まちを彩るばらや公園のライトアップなどで憩いの空間を創出し、美装化と環境改善を図っている。

報告

## agenda 06 丸之内公園整備事業について



- 福山城周辺の丸之内公園を再整備し、水に親しめる公園とする計画である。
- 子育て世代などとのワークショップを通じて設計段階から市民の意見を取り入れ、計画を進めており、公園には子どもたちが水に親しめる施設、更衣施設や木陰空間などを整備する。2024年から工事を開始し、2026年中に完成予定である。

報告

## agenda 07 旧福山東警察署駅前交番跡地の利活用について



- 福山市とUR都市機構が連携・協力して福山駅前再生ビジョンの実現に取り組むため、2023年12月に「福山市伏見町まちづくりの推進に関する協定」を締結した。
- 旧交番跡地の利活用について、UR都市機構が広島県から土地を取得し、利活用事業を行う民間事業者を公募する予定。福山市とUR都市機構は、選定された民間事業者を支援し、敷地と公共空間を一体的に利用した活用をめざす。

UR都市機構より



- 旧交番跡地は、伏見町と駅前広場をつなぐ重要な位置にあり、公共空間と一体的に活用することで、伏見町のにぎわいを生み出していきたい。将来の駅前広場での多様な活動や使われ方を後押しする取組としていきたい。

報告

## agenda 08 福山駅周辺デザイン計画の更新について



- 現在議論を進めている駅前広場再編事業の検討状況やエフピコリムリノベーション再生事業に係るイチセトウチの活動状況など、事業の進捗に応じた更新を行う予定。